

# KOEKISHA

公益社ハートフル

# Heartful



最期のお別れをサポートするエンバーミングの施術

## エンバーミングはこれからの葬儀のスタンダードとなるか

欧米先進諸国では、感染対策として、遺体をエンバーミング処置してから、埋葬することはごく当たり前のことです。片や日本では、エンバーミング率はわずか4%と少ないですが、徐々に状況に変化が生じています。では、エンバーミングとは、いったいどういったもので、なぜ日本でも増加傾向にあるのでしょうか。

### エンバーミングとは

エンバーミングは、遺体の血管に防腐液を注入し、腐敗を防ぎ、安全な衛生状態を保つ「遺体衛生保全技術」です。これによってドライアイスを使用しなくても状態保全が可能になります。

また、薬液の配合を変えることで、肌の色味を変えることもできるため、より故人の生前の表情に近づき、心行くまで最後のお別れができます。

元は、1861年 アメリカの南北戦争での戦死者を故郷に遠距離輸送することを契機に広まりました。

### エンバーミングはどう施術される

日本でのエンバーミングは、全国に

67か所あるエンバーミングセンターで、専門の知識と技術を持ったエンバーマーが処置をします。エンバーミングセンターは、葬儀社が運営していることが多く、公益社でも東京と大阪の2か所で運営しています。

### エンバーミングは特別なものではない

エンバーミングをした歴史上の人物といえば、ローマ法王、リンカーン、ケネディ、毛沢東など、特別な人のためのものというイメージをもつ人もいるかもしれませんが、交通事故など遺体の損傷が激しい特別なケースに限るものでもありません。

### エンバーミングは日本でも近年増加の傾向

20年ほど前から葬儀の在り方に変化が起きています。昔は葬儀と言えば、慣習に従って執り行うのがあたりまえでした。しかし、その価値観が徐々に変わり、今は故人や遺族の気持ちを尊重し、葬儀は多様化しています。

エンバーミングもその一つです。生前の姿のまま見送りたい、最期は安らかな顔を見たい、故人にできるだけのことをしてあげたいといった遺族のお別れに際しての気持ちが、エンバーミングによってかなえられるのです。（裏面へ続く）

#### エンバーミングのメリット

- ・安置できる時間が長くなるため、ゆっくりとお別れすることができます。
- ・遺体からの感染を防ぎ、遺族、参列者の安全を保つことができます。
- ・遺体からの臭気を軽減します。
- ・事故による損傷や、疾患による外観の変化を修復、復元できます。
- ・生前の安らかなお顔で、お別れの際、遺族に良い思い出を残すことができます。
- ・遺体を海外に搬送することができます。



このような理由から日本はエンバーミングをするケースが増えています。

## エンバーマーが足りない。 ニーズに対して遅れをとる現状

日本では年間130万人以上の方が亡くなっています。それに対して、エンバーミングセンターは全国で67か所、エンバーマーは約170名です。現在日本でのエンバーミング処置数は年間5万件を超え、20年前と比べると5倍以上になりました。

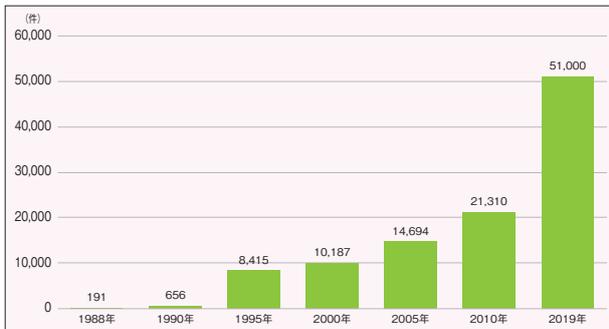
更にエンバーミングの処置件数を増加させるには、施設とエンバーマーの増加が必要になります。

新型コロナウイルスの影響による、感染症への関心の高まりとともに、エンバーミングへの注目度も上がることが予想されます。

## 数字で見るエンバーミング

国内のエンバーミング施術数(年間)	約51,000件	(2019年)
国内のエンバーミングセンター	67か所	(2020年3月末 IFSA調べ)
国内のエンバーマー数	約170人	(2020年3月末 IFSA調べ)
費用	12万円～	(IFSA加盟社の平均的な費用)

### エンバーミング処置年間推移件数



今回お話しを伺った方  
佐藤喜宜(さとう よしのぶ)

法医学者。杏林大学医学部名誉教授。各種メディアにて事件等の解説を行う。エンバーミングの第一人者。日本で活躍しているエンバーマーの多くが師事する。

## 公益社のエンバーミングの取組み

### 遺族に寄り添ったエンバーミングで、 悔いの残らない 最後のお別れの場を提供

赤澤美里(あかざわ みさと)  
エンバーマー  
IFSA 認定スーパーバイザー  
1級葬祭ディレクター



公益社東京本社エンバーミングセンター勤務。  
葬祭専門学校 講師など後進の育成にも携わる。

#### 半数以上の遺族が選ぶ エンバーミング

公益社で葬儀をあげられる方のほとんどが、エンバーミングのことは、ご存知でないのですが、きちんとご説明することで、半数以上の遺族がエンバーミングを選ばれます。

そして、多くの遺族に「やってよかった」とコメントをいただいています。

印象に残りやすい最後のお別れの場で、故人の尊厳を守り、遺族の気持ちに少しでも癒されることを願い丁寧に施術しています。

#### グリーフケアといった側面も

私は、前職で看護師をしていました。

#### 「エンバーミング」を選択した 遺族の声

亡くなった姿を孫が怖がって近づかなかったのですが、エンバーミングをした後は、すっかり変わって、顔を見て話しかけていました。お願いして本当に良かったです。

医療現場でも遺体へエンゼルメイクなどのケアを行います。もっと故人に、遺族に寄り添ったケアがしたいといった想いから、エンバーマーを目指しました。

エンバーマーを目指す過程には、遺族の死別による悲嘆を癒すグリーフケアに関することも学びます。

故人を生前のころのような安らかなお顔で見送ることが、遺族の心のケアにつながっているということも、多くの現場で実感しました。

#### 生前の姿を再現することが重要

エンバーマーは、遺体を生前のお姿に近づけるため、お肌の色の調整や、お化粧品も行います。

故人の元気だったころのお写真をお借

りし、その姿を忠実に再現できるように努めます。ただ美しく化粧を仕上げるだけでは、生前とのイメージと異なり、遺族に違和感を与えてしまいます。

特に、長い闘病生活でほおがこけるなど、面変わりしてしまった場合は、エンバーミングで修復することで、故人を安らかに送ることができます。

